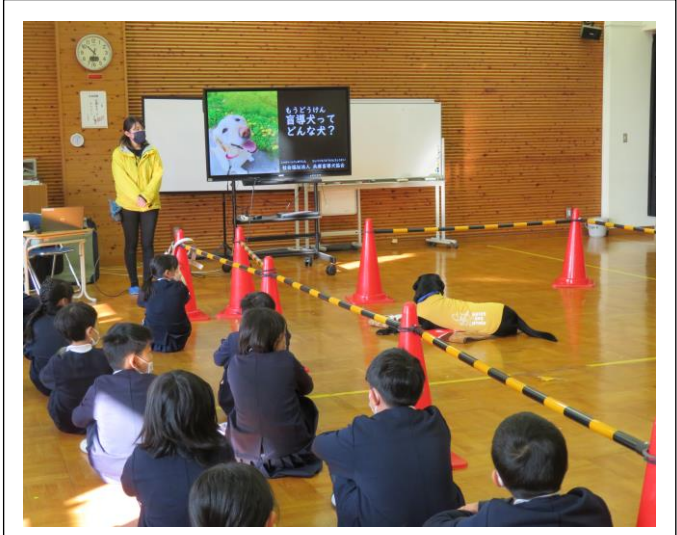


### 3・4年生が福祉学習を行いました

1月12日（木）に、3・4年生が、福祉学習として盲導犬講演会に参加しました。講師は、社会福祉法人兵庫盲導犬協会の藤原さんです。この講演会では、盲導犬使用者と盲導犬についての正しい理解を深め、正しい支援の在り方を知ることで、盲導犬使用者が暮らしやすい社会をつくることをねらいとしています。



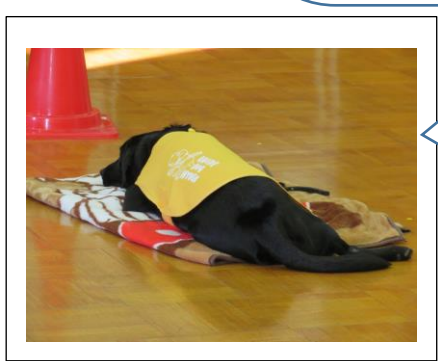
この日は、盲導犬としての訓練を受けているハイクも来てくれました。



最初に、目の不自由な方と出会った時の声のかけ方について教えていただきました。目の不自由な方に声をかける時は、正面（前）からか、横からか、後ろからか、どの位置からの声かけがよいのでしょうか。子どもたちと考えました。目の不自由な方へは、正面（前）からの声かけが大事だそうです。後ろから声をかけるのはしません。目の不自由な方にとって、誰に声をかけているのかがわかりません。また、振り向くことで目の不自由な方が見ていた方向がわからなくなるそうです。



- 【目の不自由な方へ声をかける時は・・・】
- ①「（白杖を持っておられる方に）こんにちは。何かお困りですか？」
  - ②自分の肩やひじを持ってもらう  
案内する時は、半歩前を歩く 横並びは×  
例）「右に大きく回ります。右に向いてください。次は左に向いてください。このまま真っすぐ進んでください。・・・」
  - ③「～に着きました。」
  - ④「失礼いたします。」
- ※こまめに声かけをするのがポイントです。  
 目の不自由な方は、周りの状況を教えてもらおうと安心されます。  
 ★階段を上るのか、下るのかは、絶対に伝えましょう。



さすがはハイク（盲導犬としての訓練中）です。周りに動きがあっても、じっと待っています。長時間静かに待っていました。

# 介助の仕方について

代表の児童が、アイマスクをして目の不自由な人の立場に立っておてつだい（誘導）をしてもらいました。また、目の不自由な人が盲導犬に誘導してもらう様子も説明してもらいました。盲導犬は、目の不自由な方を安全に目的地に誘導しなければなりません。障害物を回避しながら誘導できるように盲導犬は訓練されています。

**視覚障がいって?**  
 人間のもつ「五感」のひとつ  
 視覚障がいとは「目が見えない」「見えづらい」こと  
 「見えづらい」ってどんな感じ?

**白杖について**  
 ・目の不自由な方は「白杖(はくじょう)」と呼ばれる道具をつかって歩いています。  
 できること  
 ・腰より下の障害物がわかる  
 ・足元がどんな素材かわかる  
 ・自分が「目が見えにくい、見えない」という事を周囲に知らせることができる



《例えば、レストランで食事を運んでもらう時》  
 教えてもらう人も教える人もわかりやすく伝えられるように、クロックポジション（壁掛け時計のポジション）を使って説明をします。

## 《実際に盲導犬を見かけたら お願いしたい5つのこと》

- 5つのお願いごと**
- ① 声をかけないでね
  - ② 触らないでね
  - ③ 食べ物をあげないでね
  - ④ 信号の色を教えてね
  - ⑤ 写真を撮らないでね

目の不自由な人が盲導犬と一緒に行動できるようになって、  
 《良かったこと》  
 ●人と話ができるようになった  
 ●笑顔が出てきた  
 《困ったこと》  
 ▲「犬はお断りです。」（盲導犬だと伝えても）「いえ、ダメです。動物はお断りです。」と言われた時  
**※みんなが幸せに過ごせるように、さらに盲導犬への理解を深めていくことが重要です。**



3・4年生は、真剣に集中して学習に臨めました。藤原さんがとてもほめておられました。